

■池田光政 外様大名、岡山藩主。熊沢蕃山との出会いもあって、質素儉約の“備前風”を普及、好学で名君と讃えられた。

いけだみつまさ

島津琉球支配1609＝ 父姫路城主池田利隆(輝政長男)が岡山城主の弟忠継の代理で岡山在城のとき、同城内で出生し、賢母に育てられ、

支倉常長渡欧1613＝ 4歳：伏見で徳川家康に見参し、脇差を賜る。

大坂冬の陣・1614＝ 5歳：父が大坂冬の陣に参戦、

大坂夏の陣・1615＝ 6歳：父が大坂夏の陣に参戦、

徳川家康没・1616＝ 7歳：父が死去し、遺領42万石を継いだが、

吉原遊郭始・1617＝ 8歳：幼少の理由で因幡・伯耆両国32万石に減封され、

・・・・・・1618＝ 9歳：鳥取に入城した。

元和大殉教・1622＝13歳：修学に志し、板倉勝重に治国の要道を問う。

徳川家光將軍1623＝14歳：將軍・家光に従って上洛、元服して光政の名を与えられ、本多忠刻と千姫の娘勝子と縁組みを命じられた。

この間、大坂城壁普請その他で、度々参府。

紫衣勅許無効1627＝18歳：

・・・・・・1628＝19歳：勝子と結婚。

糸割符拡大・1631＝22歳：江戸で痘瘡に罹り、病臥。

徳川秀忠没・1632＝23歳：岡山城主で光政の叔父にあたる池田忠雄が死去し、子光仲が幼少のため幕府で因伯両国と備前との国替となったことから、\*岡山に移封して岡山藩主となった。以後も、ほぼ毎年参府。

鎖国令Ⅱ・・1634＝25歳：長女が誕生。熊沢蕃山が仕えるが、

東照宮完成・1636＝27歳：次女が誕生。

島原の乱終・1638＝29歳：長男が誕生。良く知ることもないうち、ゆえあって熊沢蕃山は辞している。

寛永飢饉始・1640＝31歳：四女が誕生。

家光鎖国完成1641＝32歳：\*いよいよ藩政に本格的に取り組もうと、岡山に花鳥教場を創建し、

初の高札・・1642＝33歳：諸法度を定め、仕置職を置く。

明滅亡・・1644＝35歳：五女が誕生。

・・・・・・1645＝36歳：次男、六女が誕生。頼まれて、蕃山がどのような人物かを知らずに、再び召し抱え、

・・・・・・1647＝38歳：蕃山が藩士の中でねたまれていた争いを、光政が直接裁いて、蕃山の学識に驚嘆、儒学に目覚め、光政は將軍家光の信任あつく、また家光を尊敬して、自らも藩政改革をしようとしていたが、具体的な方策が分からず、悩んでいるところであった。早速、300石の知行をして、近習頭に取り立て、

慶安御触書・1649＝40歳：三男が誕生。次女が嫁ぐ。

御蔭参流行・1650＝41歳：知行3000石の番頭に抜擢して、藩政に直接関わられるようにしたが、

徳川家光没・1651＝42歳：

野郎歌舞伎始1653＝44歳：九女が誕生。

新利根川完成1654＝45歳：長女が嫁ぐ。大洪水で危機に直面したとき、自らの仁政理念によって飢人を救済し、この機会を逃さず、地方知行制度の大変革を断行して、家臣統制の強化と領民直接支配の促進をはかり、農政を推進。

・・・・・・1656＝47歳：町会所を建てる。

明暦の大火・1657＝48歳：蕃山が家老たちと対立して、隠居。光政の子を養子にして返り咲きをねらうも、離反して失敗。年貢が確実に取り立てられるように、土木功者津田永忠を起用して新田開発、用・排水路の開削に努め、

・・・・・・1660＝51歳：金岡新田が成る。

殉死の禁止・1663＝54歳：

諸宗寺院法度1665＝56歳：\*幕府が諸寺院法度を布達してきたのをとらえ、領民の多くを仏教から神道に改めさせた。そして、寺子屋に代わる手習所を設け、そこで講釈できる人材を育成するため、藩校を設立。

酒井忠清大老1666＝57歳：

他方、年貢の取り立てが困難な原因が、過大な負担を強いる幕府の大名政策にあると気づき、

足利学校再建1668＝59歳：幕府に負担の軽減を要求。九女が嫁ぐ。

ジャクシヤインの乱 1669＝60歳：藩校が成り、蕃山が来校するが、

・・・・・・1670＝61歳：さらに百姓の学問の場となる閑谷学校の経営に着手。この頃には評定所政治の件で、光政と蕃山の間は決定的に対立、以後理解しあうことはなかった。

東西海運確立1672＝63歳：母が死去。致仕し、家督を長男に相続するが、

藤十郎登場・1678＝69歳：妻が死去。

越後騒動・・1679＝70歳：藩営の倉田新田が成り、用水倉安川が開かれ、初航行。

徳川綱吉將軍1680＝71歳：

天下一禁止・1681＝72歳：\*岡山城西の丸に居続け、実に前後50年にわたって藩政の確立を主導して、

好色一代男・1682＝73歳：体調を崩し、名医を招聘するも回復せずに、没した。和気郡和意谷の墓地に儒法で埋葬され、閑谷学校には金銅座像がある。